

キャリア教育を目指した運動部活動の在り方に関する一考察

A study on the way of athletic club activities aimed at career education

1K10C120-4 片山 瑛一

主査 吉永 武史先生

副査 作野 誠一先生

序章

めまぐるしく変化し続けているこの社会を生きていくために、2008（平成 20）年に改訂された新学習指導要領においては、子どもたちの「生きる力」をより一層はぐくむことが目指されている。また、就職難やすぐに辞職する若者の増加などが社会問題として扱われている今、学校教育を通してのキャリア教育の推進が求められている。

このような中で、私は運動部活動が「生きる力」の育成、そしてキャリア教育に対して大きな役割を担える可能性を秘めていると考えている。なぜなら、私は中学、高校、大学といずれも運動部活動に所属しており、各ステージにおいて、大切なことを学び、かけがえのないものを得られたと強く感じているからである。特に、経済産業省が提唱している「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つの社会人基礎力は、運動部活動を通して確実に私自身が成長した部分である。しかし、文武両道の武への偏りや過度な勝利至上主義、体罰やスポーツ推薦制度など、運動部活動が子どもたちにとって悪影響を及ぼしている場合も少なからず存在している。学校生活の中で多くの時間を占め、組織としてねらいを持って活動できるものこそ運動部活動である。その運動部活動の在り方をもう一度見直し再検討することで、学校教育の中で教育的意義やキャリア教育を兼ね備える重要な役割を担う活動となり、将来生きていくための力をはぐくめる活動になるのではないかと考える。

そこで本研究では、運動部活動の現状と問題点について分析し、学校教育の一環としての運動部活動が教育の目的を十分に果たすとともに、子どもたちのキャリア教育につながるような在り方について検討する。そして、実際の教育現場において、運動部活動に取り組んでいる児童生徒が、自分らしい生き方を実現させるための力を身に付けることに向けての示唆を提供する。

研究の方法については、運動部活動とキャリア教育に関連する文献の購読による文献研究によって進めていく。

第1章 運動部活動の教育的意義と現状の課題

運動部活動は、自主的・自発的に取り組むことにより、自主性や責任感、連帯感や協調性などを育むことができ、教育の目的である人格の完成や社会の形成者の育成の達成に向けて、大きな期待ができる。しかし、その一方で、

過度な勝利至上主義を大きな背景に、行き過ぎた活動による知・徳・体のバランスを崩した運動部活動や指導者管理型の運動部活動による児童・生徒の自主性が軽視されている現状などが問題である。

第2章 キャリア教育の意義と現状の課題

変化の激しい現代社会の中で、「生きる力」の育成が求められている今、学校教育から職業生活への円滑な接続を図り、社会的・職業的自立に向け、必要な能力を育成するキャリア教育が各学校で発達段階に応じて推進されている。その能力の要素には、基礎的・汎用的能力をはじめ、基礎的・基本的な知識・技能、論理的思考力・創造力、意欲・態度及び価値観、専門的な知識・技能などがある。しかしながら、現状として体験学習を通した職業観や勤労観の育成は積極的に行われている一方で、それらの能力の育成に関してはまだまだ不十分であり、計画性を持ったキャリア教育がさらに求められてくる。

第3章 キャリア教育を目指した運動部活動の方策

運動部活動による、社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力の育成を可能にするためには、指導者がしっかりとそれらの能力の育成をねらいに入れた計画的な指導が必要であり、さらに、そのためには、運動部活動が自己指導能力を備えた部員で構成されている必要がある。この自己指導能力を部員に身に付けさせるために、積極的に指導者と生徒または生徒同士でコミュニケーションをとらせ、生徒の個性を見つけ、生徒自身に気づかせながら、一人一人に部活動内の役割を十分に感じさせる。そして、指導者は自己決定の場をできるだけ多く用意し、自ら決断し、実行し、責任を持つ経験が積めるように支援する必要がある。

結章

キャリア教育を目指した運動部活動を展開させるためには、まず指導者がそのキャリア教育をねらいに入れ、意識的に指導・援助することが最も重要である。そうしたうえで、生徒が自主的、自発的に運動部活動に参加し活動することで、本来の運動部活動の意義を取り戻し、キャリア教育において重視されるべき能力の育成が多いに期待できる。